

(社) 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第4回 臨界安全管理分科会 (FISC) 議事録

1. 日時 平成12年9月8日(金) 13:30~16:30

2. 場所 (社) 日本原子力学会 会議室

3. 出席者 (敬称略)

山根(主査), 松本(副主査), 林(幹事), 姉川, 岩崎, 江頭, 熊崎, 須藤浜田, 牧口, 三澤, 三谷, 三好(13名)

(代理出席委員) 武井(鈴木委員代理) (1名)

(欠席委員) 板原, 奥野, 宮崎, 持田(4名)

(常時参加者) 篠田, 増田(2名)

(事務局) 太田, 市園

4. 配付資料

FISC4-1 第3回 臨界安全管理分科会議事録(案)

FISC4-2 臨界安全管理の基本的考え方について

参考資料

FISC4-参考1 標準委員会の活動状況について

FISC4-参考2 標準委員会 専門部会運営通則

FISC4-参考3 標準委員会規程・運営内規・専門部会運営通則の解説

FISC4-参考4 標準委員会等の開催予定と実績

FISC4-参考5 標準作成手引き

FISC4-参考6 標準原案の審議に関するガイドライン

5. 議事

(1) 出席委員の確認

事務局より, 出席者の確認の結果, 18名の委員中13名の委員と1名の代理委員の出席があり, 決議に必要な委員数(12名以上)を満足している旨の報告があった。

(2) 前回議事録の確認

事務局より前回議事録の確認を行い承認された。(FISC4-1)

(3) 活動状況報告

事務局より標準委員会等の活動状況並びに専門部会運営通則, 標準作成手引き及び標準原案の審議に関するガイドラインの説明を行った。(FISC4-参考1~6)

(4) 臨界安全管理の基本的考え方について

林幹事より説明があり議論が行われた。主な意見を以下に示す。(FISC4-2)

- ・ 原子力安全委員会にて検討を行っている安全目標も考慮し, 設計製作と運転などの各段階における臨界安全管理を具体的, 定量的に定めたい。
- ・ 安全目標に基づく臨界安全管理を行うことは, 既設の施設での臨界安全管理に安全目標を定量的に定めることとなる。ただし, 具体的にどのようなレベルで定めるか意見が分かれている。例えば, 確率論的な評価を加えることは, 本分科会の枠を越える場合もあると思われる。
- ・ 二重偶発性の2つの障壁を具体化することは, 可能ではないか。ただし, 既存の考え方との関係について検討が必要である。
- ・ 二重偶発性における障壁に必要とされる確率についてクライテリアを数値的に与えたい。
- ・ 最終的な標準の記載内容として数値を与えるか管理の考え方にとどめるかは, 議論を進めながら検討し, 判断したい。
- ・ 臨界の継続性に加え離隔など管理すべき因子を検討することが必要ではないか。

以上の議論を踏まえ, 分科会を2つのグループに分け, グループリーダーを中心に検討に入ることとなった。後日, 幹事よりグループ分けの原案を各委員に送付しメンバー確認を行う。

(5) 今後の予定

作業の進捗状況より第5回分科会を11月初めに開催することとなった。(後日, 11月30日に変更)

以上